

地域から、意欲的に夏の取り組みを！

7/2 第1回常任理事会にて今後の方針を確認

第1回常任理事会は、7月2日（土）、県平和委員会事務局で行なわれました、
県大会以後の活動報告のあと、協議に入りました。

仲間づくりと組織強化のとりくみ

1～6月は、拡大目標を決め、集中的な取り組みを進めた結果、59名の新しい仲間を迎え、最高の峯を達成することが出来ました。7月以降は仲間づくり3点セットを活用し、毎月5名の新会員をむかえる草の根のとりくみを進めます。

また、会費納入については、請求月に納入されない場合、月初めに再請求することにしました。

原発に対するとりくみ（対策委員会で具体化します）

福島原発事故は、予断を許さない状況が続いています。茨城県は関東で唯一、原発を持つ県です。その東海原発は、今回の震災で福島原発事故に匹敵する状況になりかねない状況にあったことは周知の事実です。私たちは志を同じくする他団体と協力共同を進め、「東海原発の廃炉」をめざします。そのため、

- (1) 常任理事会で「茨城の原発をなくそう対策委員会（仮称）」を設置します。
- (2) 地域を中心に学習会の開催（7月～9月頃）と経験の交流を進めます。状況に応じて、県単位の学習会・講演会（9月～10月頃）を開催します。
- (3) 10月の平和宣伝行動は、「脱原発」・「東海原発の廃炉」を中心としたチラシを作成し、手撒き・新聞折り込み・街宣車宣伝と組み合わせて全県民に配布します。
- (5) 12月の「新聞意見広告のとりくみを9月～10月頃に実施」します。

定期点検終了予定は11月。その前後から再開の論議が活発になると考えられます。

- (6) 当面、平和委員会の独自活動を継続しながら、他団体への働きかけや協力・共同行動を進めます。
- (7) 県・東海村・東海原子力研究所・その他に、「東海原発の廃炉」を申し入れます。

戦争と平和を考える特別旬間のとりくみ（8月）

現在（7/11）に明らかになっている「平和パネル展」の実施予定は、・日立、大田、取手、守谷、茎崎、下妻市戦（以上原爆展）、内原・友部（原発・原爆）、石岡、阿見、東海、鹿行、水戸西です。

7月から8月の、平和行進（7/1～13）、原水爆禁止世界大会（今年度は長崎大会へ参加）等は、地域の仲間たちと協

大震災と原発事故で変化した

国民のエネルギーと結合し、運動と組織を大きく発展させよう！

6/25～6/26 日本平和委員会第61回大会が兵庫県神戸市で開催

日本平和委員会第61回全国大会は、神戸市三宮で6月25日～26日の2日間にわたって開催されました。畑田重夫代表理事の挨拶のあと、千坂事務局長が活動方針案を提案しました。①日米安保など、「日米同盟」強化の動きに対し、沖縄のたたかいは始め、それを許さない世論が広がっていること。②原水爆禁止世界大会では、核兵器全面禁止の新国際署名を思い切って広げながら成功させよう。③原発推進政策をやめ、自然エネルギーへの転換を求める動きが、若いお母さんを含め、かつてない規模で広がっている。各地の運動への参加しよう、と呼び掛けました。討論では、福島と沖縄から特別報告がなされ、横浜の「山崎事件」の原告・山崎正則さんが挨拶しました。2日目は、12の分科会が開催され、活発な討論が行なわれました。

午後の閉会総会では、仲間づくりに関する表彰が行なわれ、茨城県平和委員会が「会員数実増44人で、ベスト3に選ばれました。ちなみにトップは神奈川県で実増148人、2位は兵庫県で実増85人でした。また、期間中に10人以上の会員を増やした会員として、水野さん（阿見）、植田さん（石岡）、山口さん（石岡）、木村さん（鹿行）等が表彰されました。さらにHPの部では「土浦平和の会」、地域版機関紙の部で「守谷平和の会」が表彰されました。会員の皆さんの仲間づくり、組織強化の取組みの中で生まれた成果を喜び合いたいと思います。また茨城県代表理事の水野さんは、組織問題委員会の役員として全体会報告を行ないました。茨城からは代表理事・水野さん、事

務局長、取り組みを進めます。

茨城平和委員会再建20周年記念行事のとりくみ

実行委員会を立ち上げ、年度内に実施します。記念式典／記念誌の発行等、具体的な内容は実行委員会で協議します。財政は独立採算とします。

「大会宣言」の扱い：第1回常任理事会で検討・修正し、全会員に送付する事としました。協議の結果、最後の部分に「原発ゼロに向けた運動など」を挿入し、県平和委員会の運動の方向を明らかにしました。また県や東海村の日本原子力発電所等、関係団体に送付します。会員にはかわら版の「別刷り」で送付します。

務局長・木村さん、青年枠で秋山さんの3人が出席しました。水野さんは日本平和委員会の常任理事として再任されました。



【発言する水野さん】



【青年枠で出席の秋山さん】

平和新聞

2011年7月5日・7月15日合併号

1961号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 599 合併号

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
2011.7/5・7/15
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

いま！求められている「原発を考える学習会」各地で開催

石岡で、200名参加（7月2日）

7団体共同「茨城で原発事故を考える講演会実行委員会」主催

菅波完さん（柏崎刈羽原発の閉鎖を訴える科学者技術者の会事務局長）を招き「本当のことが知りたい！原発と放射能」



【ふれあいの里
ひまわりの館
ホールにての講演会】

「子供の放射線に対する感受性は、大人のそれよりも3倍から10倍高い。これは未来世代の健康を犠牲にすることである。」

「本来、福島原発事故によって生じたすべての損害を、東京電力は賠償しなければならない。」

「汚染された大地や海は、損害賠償によって元に戻せるわけではなく、被害は人間に止まらない。棲息するすべての動植物の生命が眼に見えない毒によって損なわれるであろう。私たちは、この現実を身近なものとして受け止めざるを得なくなった。」

北茨城平和の会・藤田稜威雄さんよりのメール

北茨城の藤田です。

Mon. 27 Jun. 2011

昨日は9条の会かさまの「原発」問題の講演を聞いてきました。120～150人 熱心な講演会で若い奥様方の真剣な質問に改めて原発問題の深刻さを思いました。

そして今日（朝6:30）かわら版を読みました。読み応えのある内容で素晴らしい。かわら版編集者の皆さんに感謝します。脱原発特集を企画して平和委員会会員以外の方々に広く配布しては如何でしょう。

9条にも増して脱原発は、核廃絶・原子力空母の横須賀母港、安保、沖縄にもつながる平和を希求する人たちの接着剤になるものと確信します。

6月25日号のかわら版をベースにして、一般市民に訴える特集号を検討頂ければと、思います。よろしくお願ひします。以上

笠間公民館、150名参加（6月26日）

「九条の会かさま」主催

山口幸夫さん（法政大学教授・科学史）を招き
「今だから原発を考える」

「福島第1原発人災事故は、『核エネルギーは制御可能ではなかった』ことをまざまざと見つけた。」

「核爆弾の場合、核分裂の連鎖反応をごく短時間に行わせてしまえば、それで済みます。後始末はいらない。だが、核エネルギーの平和利用とされてきた原子力発電においては、絶対に必要な3つ条件がある。『止める・冷やす・閉じ込める』である。マグニチュード9.0の東北地方太平洋巨大地震とそれに伴った巨大津波によって、この絶対条件が成り立たない実例が眼前に繰り広げられている。」



【笠間公民館2階会議室での学習会】

会場には若い母親の方たちが多く、用意された席を大幅に上回る参加者がありました。参加した人たちは、終わりの見えない福島原発事故について、この地域ではどんな影響があり、どう対処したらよいかを真剣に考え、何を何のためにどのように学ぶかを模索しています。

革新懇フォーラム

放射能汚染から、県民のくらしと

健康を守るために

1. とき：7月16日（土）午後1時半～
2. ところ：茨城県立青少年会館2階中研修室1
3. 資料代：500円

★この集いが大きな共同の出発点となるよう、県内各地の多くの方々のご参加をお願い致します。

【シリーズ】 わが街・わか会員

守谷市 / 斎藤 哲 さん（守谷平和の会）



敗戦の12月に、わが家に戦争による不幸が訪れたのです。それは、父の死です。父は戦死ではありません。その時私は5才でした。父は、お国のためだといって茨城県内原にあった「満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所」に所属していました。全国から来た青少年の育成に当たっていたのです。その訓練所での過酷な労働で心身ともに衰弱してしまい、出身地の新潟県に帰っての死だったのです。

その時、母は5人の子供を残されて、どうしてよいのか途方に暮れていたのです。そんな母も女手一つで5人の子供を育て、現在97才で老人ホームで余生を送っています。

当時5才であった私にも、父の死の悲しみや辛さ、ひもじさにも耐え、母は歯を食いしばって生きて来たことを思うと、戦争の悲劇や広島・長崎での原爆の恐ろしさが思い起こされるのです。

私も成人して働き、労働組合活動をする中で、働く現場やそれを取り巻く社会、政治に対する考えが変わってきたのも事実です。

これからは、平和のことを含めて残された時間の中で、悲しみのない・苦しみのない・心豊かに住める日々になればと思っています。また、地域の中で何か出来ることが有れば…、と思っているところです。

報告

- ① 「東海第2原発の現状と今後の動向」
中村敏夫氏（茨城原発を考える会会長）
- ② 「茨城県の放射能汚染の実態と求められる対策」
大内久美子氏（日本共産党茨城県議会議員）
- ③ 「農産物への被害と賠償問題」
村田深氏（農民運動茨城県連合会書記長）

主催：平和・民主・革新の日本をめざす茨城の会（茨城革新懇）
(TEL/FAX:029-251-6525)